

青郷小だより

令和4年 3月号
高浜町立青郷小学校



ひっくり返そう



東風とともに寒さが少しやわらぎ、玄関前の桜の芽がふくらみ始めました。いよいよ3月、6年生の卒業が目の前に近づいてきました。

引き出しにしまっておいた、2年前の新聞広告を久しぶりに読み返しました。その広告は、幕内最小力士「炎鵬（えんほう）」が立つ写真の上に、11行のメッセージが並んでいます。

だいぎやくてん お
大逆転は、起こりうる。
わたしは、そのことばしんを信じない。
どうせきせきなんて起こらない。
それでもひとびとむせきになんて言うだろう。
ちいものもおおあいてたむ
小さな者でも大きな相手に立ち向かえ。
だれちがはつそうくふうくし たたか
誰とも違う発想や工夫を駆使して闘え。
いまじぶんつらぬ
今こそ自分を貫くときだ。
しかし、そんなかんがかたばか
そんな考え方は馬鹿げている。
かめしょうぶ けんめい
勝ち目のない勝負はあきらめるのが賢明だ。
わたしはただ、なすべもなくおしこ
わたしはただ、為す術もなく押し込まれる。
どひようざわ ぜつたいぜつめい
土俵際、もはや絶体絶命。

読み終えて、何だかやるせない気持ちになってしまいましたが、メッセージには、まだ続きがありました。

ここまで読んでくださったあなたへ。
ぶんしょう した うえ いちぎょう よ
文章を下から上へ、一行ずつ読んでみてください。
ぎやくてん げき はじ
逆転劇が始まります。

(裏面に続きます)

新型コロナウイルスは、相変わらず猛威をふるっています。感染対策は当たり前となり、これまで当たり前だったことが、当たり前でできない毎が続いています。

それでも、毎日子ども達は学校へ来てくれます。笑顔で無邪気に友達と遊び、一生懸命に学習に取り組んでいます。子ども達にとって、この一日一日は、かけがえのないものです。

この新聞広告を読み返す度に、「目の前の子ども達のために、何ができるか」「この状況だからこそ」という強い気持ちがわいてきます。

その広告の下には、大きな文字でこう書かれています。

「さ、ひっくり返そう。」



長寿命化改修工事 終了

長期間にわたって行われた「長寿命化改修工事」が終了しました。新しく生まれ変わった教室、明るくきれいになった廊下や階段、新しくなった、黒板・ロッカー・ドア・下駄箱など、お陰様で、校舎内外の至る所が使いやすく新しいものになりました。子ども達は、新しくなった校舎で生き生きと学校生活を送っています。

工事期間には、工事を下校後や休日に変更するなど、常に子ども達の安全と学校生活を最優先にして進めてくださいました。また、工事予定にはなかった所についても、子ども達のためにと、補修や塗り替えなどをしてくださった箇所がたくさんあります。

今回の改修工事を「当たり前」ではなく、「ありがたい」と感謝する気持ちを忘れずに、子ども達と一緒に新しい校舎を大切にしながら、今後の教育活動に取り組んでいきたいと思っています。

保護者の皆様には、ご不便をおかけしたことがあったと思いますが、ご協力ありがとうございました。



ご寄付 ならびに 寄贈品のご紹介

今年還暦を迎えられた「令和四年青郷虎兎会」の皆様から行事用ワンタッチテントをご寄贈いただきました。また、初老を迎えられた「青郷五十六酉戌会」の皆様からは、ご寄付をいただきました。

本校を卒業された先輩方の、母校ならびに地域の子子ども達を愛するお気持ちに深く感謝し、学校行事や諸活動に有効に活用させていただきます。

本当にありがとうございました。

※ 子ども達の学校生活の様子をブログでも紹介しています。ぜひ、ご覧ください。



〈 <http://seikyo.takahama-town.com/> 〉

学校ブログ〈QRコード〉